

ゆとりを見出し、楽しい酪農を！



熊本県球磨郡錦町：中村 竜郎

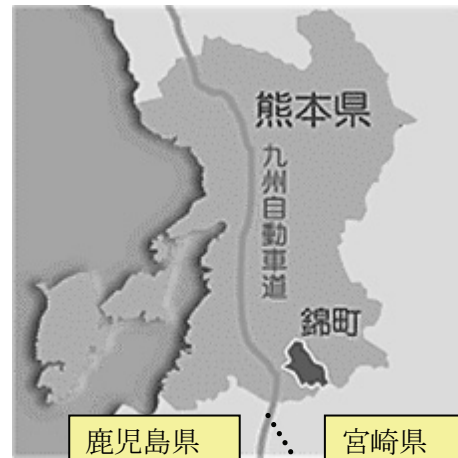
1. 経営の経過

- | | |
|-------|--|
| 昭和39年 | 祖父が経産牛1頭を導入して酪農を開始 |
| 47年 | 父が就農し、自宅前の牛舎改造と4頭の経産牛を導入 |
| 54年 | 自宅から約2km離れた現在地に移転（30頭牛舎） |
| 平成9年 | 熊本県立農業大学校卒業
就農
乾乳牛舎建設 |
| 12年 | ニューヨーク式タイストール導入
細霧装置設置
飼料イネの試験給与 |
| 13年 | 飼料イネの作付け開始 |
| 15年 | 結婚
乾乳牛舎増築
飼槽の改善 |
| 16年 | 堆肥舎建設
育成牛舎改築 |
| 23年 | 経営移譲
7月に牛舎新築（64頭の繋ぎ飼い牛舎） |



2. 地域の概況

私の住む人吉球磨地域は、熊本県の南東に位置し、南九州三都県（熊本市、宮崎市、鹿児島市）のほぼ中心部に当り、東南は宮崎県、南を鹿児島県と隣接し、熊本県東南端に位置する人吉盆地一帯です。総面積は1,536平方キロメートルで、うち森林面積は約82%を占めています。地勢は、九州中央山地の脊梁を成す山々と日本三大急流の一つである球磨川水系が作り出した平地とによって成り、典型的な盆地を形成しています。



球磨地方は内陸的な気候と山地型の気候となっており、平均気温は15.5℃、年間降水量は2,879ミリと多く、その豊富な雨水が大地を潤しています。また、地形形状からか気温差が大きいいため、霧の発生数がかなり多いのも特徴です。

豊富な水を利用して、米・畜産・お茶・果樹・タバコ葉などの農産業が基幹となっています。

3. 経営スタイル

(1) 就農への動機

私は、小さい頃から両親が仕事をしている牛舎が遊び場となっており、牛に愛情を込めて接している両親の姿を見て、「将来は酪農家になろう」と思うようになりました。

そして、農業大学校畜産学科へと進学し、酪農について勉強するとともに、同級生達と酪農について語り合う中で、就農への意思が強まり、卒業後すぐに就農しました。

(2) 規模拡大を目指して

就農当時の我が家は経産牛30頭規模で、親子2代で酪農をやるには規模が小さいことから、少しずつ規模拡大を図りつつカウコンフォートの改善に取り組んできました。その結果、経産牛が増加し、牛舎に入りきらなくなったため入れ替え搾乳で対応していました。しかし、作業効率が悪化し、労働時間が増加したことと、以前から規模拡大を考えていたことから、繋ぎ飼いで個体管理が行き届く牛舎(64頭)を新築し、労働時間の短縮と、省力化を図るためにキャリロボを導入しました。

4. 私の酪農へのこだわり

(1) 繋ぎ飼い牛舎

近年、多頭飼育による規模拡大が進み、フリーバーンやフリーストール牛舎が増えてきました。しかし、私は1頭毎の能力に合わせた飼養管理がしやすい繋ぎ牛舎にこだわり、新牛舎を建てました。

ここまで繁殖管理に重点を置いて、個体の管理に努めてきました。これからも自家育成にこだわり、個体能力の向上や平均産次数を伸ばしていけるような管理を行っていこうと思います。

(2) 土地利用型酪農

「乳牛に腹いっぱい草を食わせたい」とのこだわりを持っています。そのため、次のような取組みを行っています。

① 耕地面積の拡大

飼養頭数の増加に併せて借地により自給飼料面積も増やしてきました。周辺には畜産農家が多く、牧場近くのは場はなかなか借りられないため、少々遠くても土地がまとまった所があれば借りるようにしています。



② ロールベール体系への取り組み

私が就農するまでは、トウモロコシ+イタリアンライグラス作付体系でしたが、台風やイノシシ等の被害により、夏場はトウモロコシの作付けだけではリスクが大きいため、ローズグラスや飼料イネのロールベール体系を経営に組み入れ、自給飼料の安定確保に努めています。



③ 共同利用組織への参画

自給飼料率の向上を目的として、近隣の酪農家5戸と共同で組織する「木上良質粗飼料生産組合」に加入しています。

共同で作業をすることにより、作業効率の向上が図られ、また機械の減価償却費も抑えることができています。共同作業と我が家の作業の兼合いが難しい時もありますが、組織の役割分担を明確にしているため、良質な粗飼料の確保が図れています。

④ 飼料イネの作付け

平成12年に農業改良普及センターの協力で、乳牛に飼料イネのホールクロップサイレージを給与してみたところ、牛の食い込みが非常に良かったので、平成13年から飼料イネの作付けを始めました。

その当時は、球磨地域で飼料イネは全く作付けされておらず、手探り状態での栽培でした。そのため、農業改良普及センターと飼料イネの品種比較試験や飼料給与試験に取組み、飼料イネの作付け体系が確立されていきました。現在は、我が家で作付けした飼料イネのほかに、耕種農家が転作作物として作付した分も収穫し、乳牛に給与しています。

(3) 乳牛改良への取り組み

就農して、すぐに球磨酪農乳牛改良同志会に入会し各種の共進会に参加し乳牛の改良に取り組んできました。その結果、去年の全日本B&Wショウに熊本県代表として未經産の部で出場することができました。全国の舞台に立ち、多くの仲間に出会えた事は、私にとって大きな財産となりました。

現在は球磨酪農乳牛改良同志会の会長を務め、後輩酪農家から慕われるような良きアドバイザーとして、我が家だけではなく地域や酪農の乳牛改良に貢献していきたいと思っています。



平成 24 年度 全日本BWショウにて

(4) 飼養管理について

乳牛を少しでも長く飼い、平均産次数を伸ばすにはどうすれば良いのかを日々追求しております。我が家の飼養管理は、エサの給与回数は1日3回ですので、腹いっぱい粗飼料を食い込ませてから濃厚飼料を給与するようにしています。また、泌乳最盛期には濃厚飼料の量が計算上不足しますが、無理な増量を行わず、牛の状態を見ながら種付けを行い、1産でも多く分娩できるような管理をしています。高いピーク乳量を求めるよりも泌乳持続性の良さを優先した管理をしています。

また、繁殖成績の向上には、牛舎に居る時間、牛を観察する時間をいかに多く取るかがポイントであると考え実践しています。

給与飼料メニュー

		乳量 30 k g / 日	乳量 45 k g / 日
粗飼料	イタリアン乾草	9.0	9.0
	アルファヘイ乾草	2.5	3.0
	オーツヘイ乾草	1.0	1.0
	コーンサイレージ	10.0	10.0
	ビートパルプ	2.0	2.0
濃厚飼料	配合	8.0	12.0
	自家配合 (※)	1.0	1.0
粗濃比		57.2 : 42.8	50.1 : 49.9

(単位 : kg)

※ 自家配合 : コーン単味を主体に大豆粕、大豆単味、綿実を混合したもの

※ 飼料給与の実際

- ・ 配合飼料は 12 k g (自家配合をあわせると 13 kg) を上限としている
- ・ 配合は一日 4 回 (朝の搾乳前、搾乳後、昼、夕方搾乳前) の給与

(5) 需要期生産

九州は季節別乳価を取り入れており、夏の乳価が高い時期にいかにも生産を上げるかで、年間の収支に大きく影響します。

そのため我が家では、

- ・ 7月～10月までは乳牛の負担を軽減するために濃厚飼料の給与回数を増やしています。
- ・ 4月～6月に分娩頭数が多くなるように種付けを行っています。
- ・ 暑熱対策として、カウコンフォートに気をつけ、牛が快適に過ごせる様にと取り組んでいます。

(6) 乳質改善の取組み

- ・ 毎月バルク乳分析を実施し、現状分析を行っています。
- ・ 乳房炎対策として、乳汁検査による菌の特定を行い、それに対する治療を実施しています。
- ・ 積極的淘汰を行うための後継牛の確保に努めています。
- ・ 各種勉強会へ参加し、技術の向上と情報収集に努めています。

5. 課題と今後の目標

(1) 暑熱対策

- ・ 水道管を75ミリと太くし、十分な量の水が飲めるようにしています。
- ・ ファンを3頭に対し1機の割合で設置していますが、風が当たらない牛もいるので、増設を考えています。
- ・ 屋根からの熱が牛舎内にこもらないように、断熱効果のある塗料の施工を考えています。
- ・ 牛体を直接冷やすソーカーを導入しました。(平成25年8月)

(2) 飼養管理の省力化

- ・ 現在は分離給与により給餌の際に牛舎を何周も回っているため、TMRによる作業の軽減を考えています。
- ・ 哺乳ロボットの導入を考えています。

(3) 自給飼料対策

- ・ 今は父と二人で飼料作物の管理をしていますが、将来を見据え妻や従業員にも免許を取得させ、作業が出来るように計画中です。
- ・ 収穫作業の軽減を図るためにコントラクターの利用も考えています。
- ・ 作付け作業の時間短縮とコスト削減が図れるよう、作業機械の導入を検討しています。

現在、我が家には後継牛がたくさんおり、今年の春に搾乳牛で牛床が埋まりました。これからは、牛舎の牛を極力自家育成牛だけで更新していきながら個体販売も視野に入れ、長命連産を目指した飼養管理に取り組んでいきます。

また、課題を一つひとつクリアしながら、妻と二人で力を合わせ、子供たちのために“ゆとりを見出し、楽しい酪農”を実践していきたいと考えています。

6. 経営の推移

項目		年度	平成22年	平成23年	平成24年
規模	飼養頭数	経産牛(頭)	49	57	64
		未經産牛(頭)	13	14	13
		育成牛(頭)	15	8	9
		子牛(頭)	14	26	31
		合計	91	105	117
	労働力(人)	3	4	5	
乳量	総乳量<哺乳・自家消費用含む>(kg)		401,502	475,415	569,052
	経産牛1頭当り乳量(kg)		8,194	8,341	8,891
乳質	乳脂率(%)		3.78	3.87	3.89
	無脂乳固形分率(%)		8.64	8.69	8.80
	体細胞数(万個/ml)		15.0	19.0	17.0
	細菌数(万個/ml)		3.0	4.0	3.0
状繁殖	平均種付回数(回)		2.2	1.9	2.1
	分娩間隔(ヶ月)		12.9	12.8	13.0
経営分析	総乳代(円)		40,028,537	47,836,402	58,105,788
	子牛・育成牛・肥育牛販売代金(円)		2,823,394	1,693,300	2,245,950
	乳飼比(%)		-	-	44.73
	総農業所得(円)		-	-	10,123,034
	所得率(%)		-	-	16.59
	生乳1kg当り生産費(円)		-	-	89.53

7. 経営の成果

(1) 当期費用と生産原価

(単位:円)

科 目		金 額	経産牛1頭当 金 額	生乳1kg当 金 額	摘 要
購入飼料費		25,988,448	406,070	45.67	
自給飼料費		974,707	15,230	1.71	
敷料費		481,500	7,523	0.85	
労働費	雇 用	1,361,524	21,274	2.39	
	家 族	4,700,000	73,438	8.26	1
	計	6,061,524	94,711	10.65	
素牛購入費		514,500	8,039	0.90	
診療衛生費		2,996,925	46,827	5.27	
水道光熱費		1,129,918	17,655	1.99	
動力費		1,256,671	19,635	2.21	
種付料		1,500,252	23,441	2.64	
償却費	乳 牛	3,911,320	61,114	6.87	
	建物・構築物	1,685,751	26,340	2.96	
	機械車両	4,719,808	73,747	8.29	
	計	10,316,879	161,201	18.13	
修繕費		2,637,442	41,210	4.63	
小農具費		145,000	2,266	0.25	
消耗資材費		1,186,298	18,536	2.08	
賃料料金		4,421,206	69,081	7.77	
費用合計		59,611,270	931,426	104.76	2
期首育成牛子牛評価額		6,751,991	105,500	11.87	3
合計		66,363,261	1,036,926	116.62	4=2+3
期中経産牛繰入評価額		6,415,497	100,242	11.27	5
期末育成牛子牛評価額		6,099,000	95,297	10.72	6
育成牛子牛販売収入		1,095,150	17,112	1.92	7
副産物価格		1,805,674	28,214	3.17	8
差引生産原価		50,947,940	796,062	89.53	9=4-(5~8)

(2) 酪農部門の損益

(単位:円)

区 分		金 額	適 要
酪農収益	牛 乳 収 入	58,105,788	自家消費分含む
	育 成 牛 販 売 収 入	1,150,800	4 頭
	子 牛 販 売 収 入	1,095,150	23 頭 7
	厩 肥 販 売 収 入	0	交換分含む
	そ の 他	654,874	8
	計	61,006,612	10
生産費用	期首育成・子牛評価額	6,751,991	3
	当 期 費 用	59,611,270	2
	期中経産牛繰入評価額	6,415,497	5
	期末育成・子牛評価額	6,099,000	6
	差 引 生 産 費 用	53,848,764	11=3+2-5-6
売上総利益		7,157,848	12=10-11
一般販売 管理及び 費	販 売 経 費	2,928,529	
	共 済 掛 金	1,195,729	
	租 税 公 課	1,542,946	
	計	5,667,204	13
事業利益		1,490,644	14=12-13
事業外 収益	受 入 共 済 金	955,246	
	配合飼料価格差補填金	100,950	
	償却対象牛処分益	2,052,400	
	そ の 他	5,251,701	受取利息転作奨励金組合還元金等
	計	8,360,297	15
事業外 費用	支 払 利 息	153,952	
	支 払 地 代	1,388,523	
	配合飼料価格差積立金	82,000	
	償却対象牛処分損	507,100	
	そ の 他	2,296,332	
	計	4,427,907	16
当 期 純 利 益		5,423,034	17=14+15-16
所 得		10,123,034	18=17+1
所 得 率		16.59	19=18/10
当 期 償 還 金		0	20
償 還 金 控 除 後 所 得		10,123,034	21=18-20